

個人投資家向け会社説明会 ミーティングメモ

SOMPO ホールディングス株式会社 (8630)

開催日：2018年2月17日

場所：大阪新阪急ホテル 2階 『紫の間』(大阪市北区)

説明者：執行役員 経営企画部長 浜田 昌宏 氏

1. 会社概要

- ・ 当社の時価総額は2018年1月末現在、約1兆7,000億円です。
- ・ 2014年9月、損害保険ジャパンと日本興亜損害保険が合併、損害保険ジャパン日本興亜となりました。
- ・ 現在当社は持ち株会社制に移行しており、上場会社はSOMPOホールディングスとなります。
- ・ 1970年から数十年間にわたり、モータリゼーションの進展に伴って売上高は右肩上がりに伸びてきましたが、1996年、保険業の自由化が始まると横ばいになりました。その後は、合併や買収などによって売上高は増加しました。
- ・ 当社のさらなる成長にはキャッシュをつくり出す力が重要で、安定した自動車保険料収入・収益が当社の大きな強み・武器になっています。
- ・ 当社の実質自己資本は約3.1兆円、リスク量は約1.4兆円(2017年9月末)です。リスク量とは例えば200年に1度程度の大きな自然災害が発生した場合、保険会社が被るとされる損失の計算値です。リスクに対して自己資本がどの程度あるかを表す指標であるESRは226%で、問題ない水準です。
- ・ 強固な財務基盤により、当社は高い格付けを維持しています。

2. 成長戦略(中期経営計画)と株主還元

- ・ 国内損保事業を中心とした安定的な利益の50%を株主還元し、残りの半分を成長投資に使っています。
- ・ 持ち合い株といわれる政策株式など資本効率の低い資産を、効率の高い事業などへ入れ替えを進めています。
- ・ これらのサイクルを当社の成長ストーリーとしています。
- ・ 2017年度第3四半期の決算での利益は1,500億円程度となりました。2017年度通期では1,950億円を見込んでいます。
- ・ 株主還元については中期的に修正連結利益の50%を還元する方針としています。還元の方法は配当と自己株式取得の2通りです。
- ・ 4期連続で増配予定です。また、配当のウェイトを現状よりも大きくしたいと考えています。
- ・ 2016年度は国内損保事業で全体の4分の3の利益を出しました。2~3年後には海外保

大和インベスター・リレーションズ(株)(以下、「当社」といいます。)はこの資料の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに記載された意見等は当社が開催する個人投資家向け会社説明会の開催時点における当該会社側の判断を示すに過ぎず、今後予告なく変更されることがあります。当社は、ここに記載された意見等に関して、お客様の銘柄の選択・投資に対して何らの責任を負うものではありません。この資料は投資勧誘を意図するものではありません。当社の承諾なくこの資料の複製または転載を行わないようお願いいたします。

険事業の利益のウエイトが拡大し、国内損保事業のウエイトが相対的に減少する見込みです。これをトランスフォーメーションと呼んでいます。国内損保事業を軸としたビジネスからの事業分散を図ります。

- ・ 成長戦略の一つはデジタルトランスフォーメーションです。
- ・ 従来できなかったことが最先端のデジタル技術によって実現し、社会構造そのものを変えようとしています。当社でもデジタル技術を使って顧客との接点を変えるなど、さまざまな取り組みを行って生産性を高め、利益を増やしていきます。
- ・ シリコンバレー、テルアビブ（イスラエル）など最先端デジタル技術を持つ拠点にラボを設け、いろいろな研究を行っています。
- ・ ESG（Environment：環境、Social：社会、Governance：ガバナンス）についても、さまざまな取り組みを実施しており、社会的課題の解決を通じて、サステナブルな社会の実現に寄与していきます。

3. 国内損保事業と国内生保事業

- ・ 現在の主力は国内損保事業です。2016年度、損保ジャパン日本興亜のマーケットシェア（正味収入保険料ベース）は単体では日本最大です。
- ・ 正味収入保険料内訳では自動車保険が半分を占めています。自動車保険の収益は2013年度から黒字が続いています。
- ・ お客さまに万が一のことが起こったときに少しでも安心していただけるよう、デジタル技術を活用し、いろいろなサービスを提供しています。例えば、2016年の糸魚川市大規模火災ではドローンを活用し、迅速に損害状況を把握しました。
- ・ 自然災害などが起きても利益には大きく影響しないように各種取り組みを実施しており、利益は安定的に増加しています。
- ・ 通販型（ダイレクト）自動車保険はテレビCMで安さをPRしています。
- ・ イギリスではダイレクト保険が半分以上を占め、アメリカも20数%に達しています。ところが、日本では7~8%のシェアしかありません。当社では通常の保険とダイレクト保険の両方を用意しており、どちらも選択可能な状態にしています。
- ・ 生命保険事業の当社のシェアは現状2~3%しかなく、チャレンジャーの立場ですので、特徴のある商品や、健康を支援するサービスなどを継続的に投入しています。
- ・ 当社は貯蓄型を積極的に取り扱っていません。貯蓄型は金利の変動によって利益のボラティリティー（価格変動の度合い）が大きくなります。当社は安定的に利益を創出していくというスタンスで、保障性商品を積極的に販売しています。

4. 介護・ヘルスケア事業と海外保険事業

- ・ 介護事業は今後拡大していくことが見込まれる成長産業です。少子高齢化が進むと縮小していく事業が多い中、介護事業は拡大していきます。

-
- ・ 当社は 2 つの会社を買収し、日本で 2 番目の介護事業者となりました。施設数では日本一です。
 - ・ 資本、ブランド、信頼度に加え、ICT など最新の技術を使って、質が高く利益も出るビジネスとして介護事業を育てていきたいと考えています。
 - ・ 2015 年度に本格参入しましたが、今年度数十億円レベルの利益が出る見込みです。
 - ・ 介護事業の課題は需給ギャップです。介護サービスを提供する人が圧倒的に不足しており、このままでは 2025 年には数十万人不足するといわれています。
 - ・ そのために、要介護の人数を減少させることに取り組みます。2017 年 9 月、この分野の権威である国立長寿医療研究センターと包括連携し、認知症予防などの研究をスタートさせました。
 - ・ もう一つの取り組みは在宅介護です。当社では自宅にしながら老人ホームと同じ程度のサービスを受けられる「在宅老人ホーム」に取り組んでいます。良好なサービス提供と効率性向上の両立を目指し、試行展開しています。
 - ・ 損害保険・生命保険事業とのコラボレーションで、さまざまなアイデアが飛び出し、良い化学反応を起こしています。
 - ・ 海外事業については 2016 年度に 7,000 億円ほどで海外の会社を買収しました。海外市場は成長余地が大きいので、今後も海外事業における成長を目指していきます。

5. まとめ

- ・ 今後 5 年程度は自動車保険で利益の創出が維持できると考えています。しっかりと皆さまに還元するとともに、成長投資に結びつけ、海外・生保・介護事業などで成長を加速させます。

6. 質疑応答

- Q1. 2017 年度は大きな自然災害が相次ぎましたが、今後も増配を期待してよいでしょうか。また、株主還元の拡充策を教えてください。
- A1. 当社は中期的に利益の 50%を還元する方針です。例えば、2016 年度は 7,000 億円の買収を行いました。50%還元を維持しました。2017 年度もその方針に変わりはありません。その中でも、配当のウエイトをもう少し高めることを検討していきたいと考えています。
- Q2. 今後の成長戦略・利益拡大戦略を教えてください。
- A2. 国内損保事業中心のビジネスから、事業分散へ、特に海外保険事業のウエイトを高めます。海外の規模が大きくなり、相対的に国内のウエイトが小さくなります。こうしたポートフォリオ変革などによって成長を図ります。

-
- Q3. 配当・優待に関する考えなどを、もう少し詳しく教えてください。
- A3. 優待については、4割が外国の株主であること、保険という事業の性格などを考えると、皆さまに喜んでいただけるものを用意することが、なかなか難しい状況ですが、引き続き社内で議論していきます。
- Q4. 近年、ハリケーン、地震、火山噴火など、大規模自然災害が多発していますが、貴社の業績に与える影響を教えてください。
- A4. 自然災害対策として、大きく分けて2つの対応をしています。ひとつは国内の損害保険の会計ルールとして、単年度決算上は大きな自然災害影響を小さくするというものです。もうひとつは再保険です。そうした手法を使うことでリスクの分散を図り、大きな損害が出ないようにしています。
- Q5. 介護・ヘルスケア事業の方向性を教えてください。保険商品との連携も考えていますか。
- A5. 認知症対策や在宅介護サービスの拡充などを進めるとともに、グループ内の生命保険会社の保険商品とコラボレーションするなど、各事業とシナジーを出すべく、さまざまな取り組みを進めています。
- Q6. 少子高齢化時代の他社との差別化戦略を教えてください。
- A6. 他社と比較すると、当社の特徴は国内で保険以外の事業、たとえば介護事業などに積極的に取り組んでいることです。ご説明のとおり、介護事業によるさまざまなシナジーの発現に取り組んでいます。

以上